

## 第 24 回国際珪藻シンポジウムに参加して

中村憲章：第 24 回国際珪藻シンポジウム（2016 年 8 月 21 日～26 日，カナダ，ケベック）に参加して

本シンポジウムにおいて，私は「Variation in morphological characters of diatopetum in relation to valve ultrastructure」という題目で口頭発表を行った。Diatopetum は珪藻の被殻を裏打ちする有機層として知られているが，その全体構造の観察例は少ない。私は diatopetum の構造的特徴とその多様性を明らかにすることを目的として，多様な珪藻種から diatopetum の全体構造を観察，細胞壁との構造的比較を行った。19 属 24 種から得られた diatopetum には，透過型電子顕微鏡により高電子密度で示される模様を観察された。模様のパターンは珪藻種によって異なり，胞紋を反映するものと，条線を反映するものが存在した。これらの模様は，原子間力顕微鏡により肥厚した部位として示され，細胞壁の内側の立体構造に対応して生じ，間隙を埋めるように存在していると考えられた。胞紋下に肥厚が存在した一方で，粘液の分泌に関与する小孔や縦溝の直下では，diatopetum にも孔やスリット様構造が認められた。

口頭発表の後には多くの先生方からアドバイスや指摘をいただくことができた。先生方はどなたも親切で，中には「必要な時には持っている培養株を送る」と申し出てくださる先生もいらっしゃった。特に，珪藻の持つ多糖について研究されている Graham Underwood 博士がとても親身になってくださったことが印象に残っている。私の研究内容が博士の研究と関連があったため，私がお意見を伺いに行くと，その日の昼食会の際に時間をとってくださった。そして，研究内容を見ていただけただけでなく，今後の研究の参考となるだろう論文や実験のアイデアを教えていただくという，とても有意義な時間を過ごせた。これら先生方からアドバイスをいただいたことで，自身の研究目標やいまだに至らぬ点などを見つめなおすことができた。先生方からいただいた言葉を参考にして，自身の研究を今後も高めていく。

また，今回のシンポジウムでは若手研究者主導のミニシンポジウムが開かれ，私もそこで口頭発表をすることができた。また，私も海外での学会参加に慣れてきたこともあり，ポスター発表の時間などでも，多くの若手研究者と話をすることができた。若手の皆さんとは，珪藻という生物を共通としつつも，それぞれが興味を持つ分野や目標が異なっている。彼らと珪藻をきっかけとして様々な話題を話すことで，私はたくさんのことを学ぶことができ，楽しい時間を過ごせた。中でも，シンポジウム期間中を通して，バングラデシュの Mahmudur 君とは親しく過ごさせてもらった。珪藻研究をきっかけとして，海外の友人を増やすことができたのは，今回のシンポジウムに参加できたおかげである。私の今後の研究生活や人生において，とても貴重な機会を得ることができた。

最後に，本シンポジウムへの参加に際して，国際珪藻シンポジウム東京大会記念基金より多大な助成をいただいた。この場をお借りして厚く御礼を申し上げる。

中村憲章：〒917-0003 福井県小浜市学園町 1-1  
福井県立大学大学院生物資源学研究科海洋生物資源学専攻  
Noriaki Nakamura: Department of Marine Biology,  
Fukui Prefectural University, Obama-shi, Fukui 917-0003, Japan

阿部美保：第 24 回国際珪藻シンポジウムに参加して

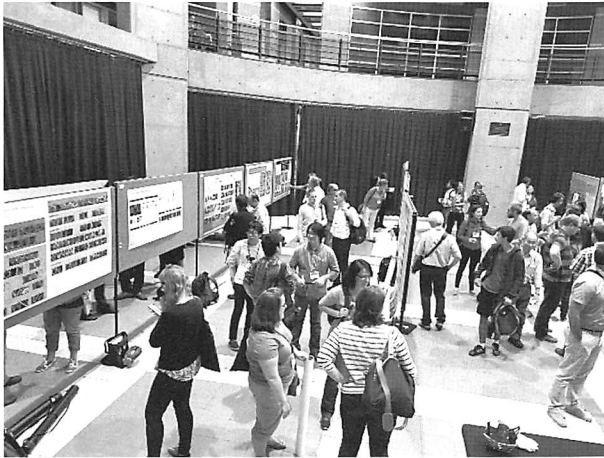
8 月 21 日から 27 日の一週間に亘り，カナダの Laval 大学で国際珪藻シンポジウム（24th International Diatom Symposium）が開催されました。開催地であるケベックシティは，ケベック州の州都であり，「ケベック旧市街の歴史地区」として世界文化遺産に登録されています。16 世紀頃から始まったフランス人の入植の影響を強く受けたため，現在もフランス文化が根強く残る中世ヨーロッパのような街並みを見ることができます。また，公用語もフランス語となっており，カナダの中でも



写真：口頭発表する著者



口頭発表の様子



ポスターセッションの様子

複雑な歴史を感じさせる街として多くの観光客が訪れています。

今回の国際珪藻学会では、主に口頭発表とポスターセッションが行われ、私は“Evolution and structural diversity of the fultoportula”というタイトルで90分間のポスターセッションに参加しました。世界中の研究者が集う学会であるため、質疑応答では専門性に特化した

有意義な議論ができ、今後の研究への活力となる貴重な意見をたくさん頂くことができました。また、学会には珪藻を専門としていない方も参加しており、幅広い視点から自分の研究について見つめ直す良い機会となりました。

さらに、今回の学会から Young Scientist Meeting が開催され、大学院生、Ph.Dなどの若い研究者によるショートセッションや研究に関する議論が行われました。学生が主体となって行うセッションは活気があり、非常に良い雰囲気の中でのびのびと議論できる場であったと思います。

国際学会への参加を通して、世界中の研究者と様々な意見交換をすることで、研究の専門性をより高めることができました。このような貴重な経験をさせて頂いたことを本当に嬉しく思います。今回得た経験を無駄なく活かし、今後の研究に繋げていきたいと考えています。

阿部美保：〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12  
山形大学大学院理工学研究科

Miho Abe: Graduate School of Science & Engineering,  
Yamagata University, 1-4-12 Kojirakawa, Yamagata  
990-8560, Japan